

調査と情報

編集・発行
 (株)農林中金総合研究所基礎研究部
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
 TEL. 03-3243-7331
 FAX. 03-3270-2233

人間は、森林を切り開いて農耕等を営み都市を築き文明を創造してきたといわれている。その過程で森林を使い盡くして亡んだ文明がある。

今また現代工業文明は、この悲劇を地球規模に増幅しようとしているかのようだ。即ち、一方では地下埋蔵の石炭、石油 人類の誕生以前に地上にあった森林などを掘り出して燃やしてCO₂を放出し、他方では今地上にある森林を伐採してCO₂吸収源を減らし、両々相俟って地球温暖化を加速し、地球環境を破壊しようとしている。

そこで、これを喰い止めるため一九九二年リオの地球サミットで三つの取極めが合意された。即ち、CO₂等の排出を抑え地球温暖化防止を目ざす気候変動枠組条約、生物多様性条約、森林原則声明である。しかし、の成否の鍵を握るといってよいは、利害対立から条約にならなかった。持続可能な森林管理の合意づくりの努力が続いている。

さて、地球温暖化防止の実効を挙げるため、一昨年のCOP3で歴史的な京都議定書が採択された。先進国は二〇〇八年—二一年の年平均でCO₂等の排出量を一九九〇年の排出量よりも一定比率削減することが義務づけられた。日本の削減率は六%である。

この目標を達成するための対策は、(1)省エネ強化、新エネルギー導入、その他様々の努力によるCO₂排出削減、(2)CO₂吸収源である森林の造成、

森林を増やしCO₂吸収を

(3)補完的に排出量取引等、である。

以下、(2)の森林について見よう。京都議定書第三条で九〇年以降の新規植林、再植林、森林減少による排出または吸収されるCO₂の純変化量を目標達成の計算に勘案するとされている。政府は現在、その分として〇・三%の削減を見込んでいる。また、二〇一〇年頃の日本全体の森林等による純吸収量は三・七%程度と推計されるので、今後森林の吸収量の具体的算定方法等について国際会議で詰める際、追加的吸収分を確保するよう努力するとされている。

このように森林は、CO₂吸収源として重要であるが、同時に災害防止、水源涵養などの公益的機能も多い。日本は、国土の三分の二を森林で覆われ恵まれていた。

人々は、鎮守の森を囲み木質の生活環境と文化の中で育ち、心身の健康を保ってきた。森林は日本人にとって単なる経済財ではなく、環境保全財であり伝統文化を支える財である。しかし今や木材輸入増加の反面で放棄林など林業は苦境にある。

林野行政の姿勢も山林の多面的機能重視へと変わり始めた。国民も森林の重要性に目覚め始めたリクリエーション、自然学習だけでなく、造林ボランティア活動が盛んになり、さらに山林の恩恵を受ける者が保全コストを負担する意識、木質伝統文化を守る自覚が高まることを願っている。

(農中総研理事長 清水 汪)

も	森林を増やしCO ₂ 吸収を.....1	ぶっくレビュー	
く	21世紀の森林・林業と森林組合運動.....2	『森林ニッポン』.....9	
	戦後の林業政策の変遷.....3~4	あぜみち.....10	
	FAOデータから考える世界の食料生産...5~6	虹のかけ橋.....11	
	吉野林業地帯	統計の眼「1997年アメリカ農業センサス」...12	
じ	その伝統と現在.....7~8	編集後記.....12	